

株主のみなさまへ

第21期 平成20年12月1日～平成21年11月30日

株主・投資家の皆様へ



代表取締役会長兼社長
グループCEO

谷間 真



専務取締役
グループ営業本部長

田中 正



専務取締役
玄品食門研究所所長

山元 正

私は平成19年に現在のトドクックの前身であるカネジの社長として玄品グループに参画してから、このことに対しての問題意識を持っており、既存店売上高の低下はこのことに起因していると考えております。

事業はお客様に支持されているからこそ繁栄します。営業はお客様一人ひとりに我々玄品グループの創造する商品・サービスをまごころを持ってお届けするという当たり前のことを実行していくことで必ず業績は回復します。

具体的な各事業における今期の重点施策を教えてくださいませんか？

谷間 まず、「玄品ふぐ」でやるべきことは、各店舗が常連様と呼ばれるお客様を一人でも多く作っていくことに尽きます。この取組みは昨年6月から開始し、これまでの20万人近くの顧客データベースとは別に、既に1万人の常連様名簿が出来上がりました。これまでのように良い商品を愛想よく提供していればお客様が来てくれる時代は終わったと思っています。通常のチェーン店では考えられないレベルでお客様との信頼関係を構築していく取組みを推進し、愛される店づくりを目指してまいります。

もうひとつはコスト削減です。人件費については、店舗の運営状況を詳細に把握し人材のレベル向上を図ることでサービスレベルを落とすことなく圧縮します。その他、費用対効果の不明確な広告宣伝費、その他の経費についても徹底的な見直しを実施し、コスト削減に努めてまいります。「その他の外食店舗」につきましては、お客様を大事にすることとコスト管理については玄品ふぐと全く同じですが、新業態の開発、メニュー・販売促進の見直しなども合わせて進める必要があると考えています。

田中 トドクックについては、営業とお客様との信頼関係が非常に向上したことがこの1年間の成果だと考えており、当社の営業がお勧めする商品であればご購入くださるお客様の割合が大幅に向上しております。このような状況から、今期につきましてはこれまでのレシピ付夕食食材だけではなく、お客様の購買意欲をそそる企画商品を数多く投入し、家庭内でのトドクックの利用シェアを上げていくことが大切だと思っています。

TO THE SHAREHOLDER AND INVESTORS

今期業績予想も減収となる見込みですが、玄品グループとしての将来の成長についてはどのようにお考えですか？

谷間 玄品グループは、主力業態である「玄品ふぐ」の事業拡大、そして、平成19年以降のM&Aにより急激な成長を実現いたしましたが、その反面で既存店売上高の低下、総菜宅配事業での損失計上、だいもん・富士水産についてもM&A後のマネジメント力不足などの多くの問題が発生いたしました。前期はそれらの問題をクリアし足場を固める期間と位置づけ、お客様を向いた営業への改革、総菜宅配事業の事業再編による黒字化、だいもん・富士水産の組織改革などを実行し、その目処が見えてきたといったところです。このような状況の中で、今期については、前期までの取組みの仕上げと将来への成長へ向かうための準備期間と位置づけております。既存事業を成長軌道に乗せることと新規事業の開発を推進することで、今期中には明確な成長戦略をご説明できる企業グループへと進化する考えです。

山元 玄品グループの成長のために、具体的に検討・調査している分野といたしましては、競争力ある食材の販売事業、アジア圏での飲食店の出店、技術提供によるライセンスビジネス、事業再生・コンサルティングビジネスなどを視野に入れております。どの分野も我々の培ってきた食材に関連する技術開発力と調達力、生産ノウハウ、そして飲食店の経営力とアライアンスパートナーの経営資源が組み合わせあって、新たな価値を創造できるかがポイントとなってくると思います。

谷間 国内の経済環境は非常に厳しい状況ではありますが、社会全体がこの状況から脱却すべく新たな取組みを実践しているのか、将来に夢が広がるお話は逆に増えてきているように感じております。

株主の皆様には、どうかご理解を賜り、今後も玄品グループをご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

HISTORY

玄品グループの歴史

昭和55年	大阪府藤井寺市において、創業者山口聖二が当時では考えられない「てっちり1,980円」をキャッチフリーズとしたとらふぐ料理専門店「ふぐ半」(現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店
平成元年	株式会社さかな亭(現株式会社関門海)を設立
平成11年	関東地区1号店「下関ふぐ新橋店」(現「玄品ふぐ新橋の関」)を開店 食材に関連する技術開発を目的とした研究開発室(現「玄品食門研究所」)を創設
平成13年	株式会社関門海に商号を変更 大阪府松原市に、研究開発室、セントラルキッチン、物流センターを兼備した本部事務所を開設
平成14年	とらふぐ料理店の屋号を「玄品ふぐ」に統一 三重県に関門海三重陸上養殖場を建設
平成15年	長期低温熟成技術が完成し、とらふぐの保存・輸送への導入開始
平成16年	玄品ふぐフランチャイズ店舗1号店「玄品ふぐ銀座一丁目の関」を開店
平成17年	東京証券取引所マザーズ市場へ株式上場 創業者山口聖二が交通事故により急逝
平成18年	店舗数100店舗を達成
平成19年	総菜宅配「おかずのカネジ」を新設子会社株式会社カネジが事業譲受 大阪市西区にグループ本部事務所を開設 サッポロビール株式会社との資本業務提携
平成20年	とらふぐ養殖の株式会社富士水産を子会社化 回転寿司「すし兵衛」の株式会社だいもんを子会社化 総菜宅配「ラビットクック」の株式会社アクト・デリカを子会社化 株式会社カネジと株式会社アクト・デリカを合併し、株式会社トドクックに社名変更
平成21年	農業生産法人株式会社ぐろーばる農園を設立

財務ハイライト

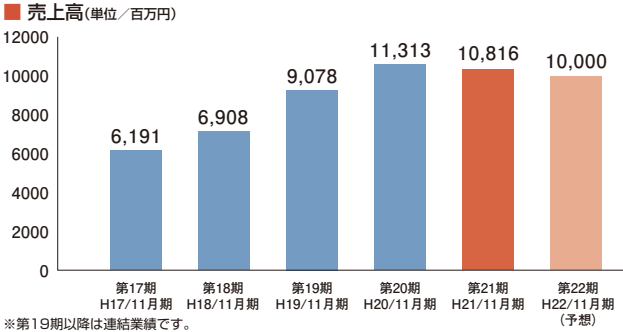
FINANCIAL HIGHLIGHT

財務状況

当社グループの当連結会計年度における売上高は、10,816百万円(前年同期比4.4%減)となり、利益につきましても、前年同期に店舗譲渡による一時的な収益として営業利益196百万円が計上されたこともあり、営業利益130百万円(前年同期比70.3%減)、経常利益49百万円(前年同期比86.7%減)と大幅な減益となり、さらに店舗閉鎖損失、不採算店舗の減損損失、総菜宅配事業の統廃合等に係る特別損失を計上したことにより当期純損失151百万円(前年同期は当期純利益155百万円)と最終赤字の決算となりました。

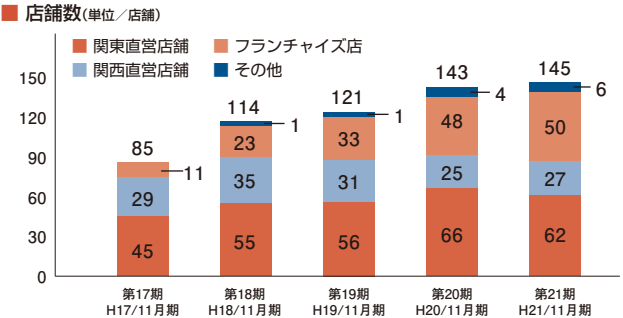
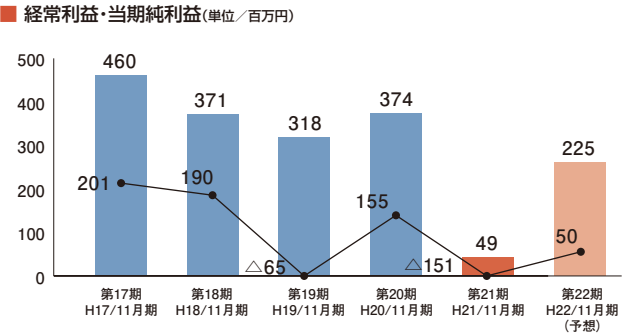
セグメント別では、研究開発型外食事業につきましては、「玄品ふぐ」の現在の店舗数は、直営店舗68店舗、フランチャイズ店舗50店舗、計118店舗、「すし兵衛」「玄品以蟹茂」等のその他の外食店舗27店舗と合わせて145店舗(前期末比2店舗増)を展開しております。業績面では、既存店売上高の低下により、売上高は6,771百万円(前年同期比8.4%減)となり、営業利益は、前述の前期の一時的な収益の影響もあり529百万円(前年同期比48.6%減)と減収減益となりました。

総菜宅配事業につきましては、株式会社カネジと株式会社アクトデリカを統合し、コストダウンと営業施策を急速に進めることにより、第2四半期から黒字化いたしました。計画どおりの新規顧客の開拓が進まなかったことに



より収益性を大幅に改善するには至りませんでした。結果、売上高は3,639百万円(前年同期比2.7%減)、営業損失は第1四半期の赤字により3百万円(前年同期営業損失171百万円)となっております。

その他の事業につきましては、有限会社しまや酒店の株式を譲渡したことにより、沖縄における業務用酒販事業から撤退しております。結果、売上高は405百万円(前年同期比127.0%増)、営業利益は23百万円(前年同期比6.8%減)となりました。



平成22年11月期 業績予想

平成22年11月期は、売上高10,000百万円(前年同期比7.5%減)、営業利益330百万円(前年同期比153.6%増)、経常利益225百万円(前年同期比351.9%増)、当期純利益50百万円(前年同期は151百万円の損失)と厳しい経済環境の中で売上高は減少する計画としておりますが、グループ全体で顧客満足に繋がらない販売費及び一般管理費を549百万円、8.7%削減することで利益構造を再強化し、減収増益の計画を達成していきます。

セグメント別では、研究開発型外食事業は、営業施策の徹底により店舗業績の改善を図ってまいりますが現在の状況を勘案した結果、既存店売上高の一部減少を見込み、結果、売上高は6,200百万円(前年同期比8.4%減)と予想しております。営業利益につきましては、広告宣伝費、人件費などの販売費及び一般管理費の削減を徹底することで680百万円(前年同期比28.5%増)と増益を達成することは十分に可能であると予想しております。

総菜宅配事業につきましても、直近の状況を踏まえ売上高は3,450百万円(前年同期比5.2%減)と減収となると予想しておりますが、営業利益については、前期第1四半期の赤字の黒字化による改善及びコストダウンにより70百万円(前年同期は3百万円の損失)と通期黒字化する見通しです。

食材卸その他の事業につきましては、新たに大阪黒門市場での水産物等の物販、競争力ある食材の外部販売など新たな取組みを開始してまいりますが、有限会社しまや酒店の株式譲渡による業務用酒販卸事業からの撤退により売上高は350百万円(前年同期比13.7%減)となり、営業利益は30百万円(前年同期比28.1%増)を見込んでおります。

(単位:百万円)

	平成21年 11月期実績	平成22年 11月期計画	前年同期比
売上高	10,816	10,000	△7.5%
売上原価	4,387	3,920	△10.6%
売上総利益	6,429	6,080	△5.4%
販売費及び一般管理費	6,299	5,750	△8.7%
営業利益	130	330	+153.6%
営業外収益	32	15	△53.4%
営業外費用	112	120	+6.6%
経常利益	49	225	+351.9%
特別損益	△110	△100	－
税金等調整前当期純損益	△60	125	－
法人税等	90	75	△17.4%
当期純損益	△151	50	－

連結財務諸表

FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表 (要約)

	当 期 (H21.11.30現在)	前 期 (H20.11.30現在)
資産の部		
流動資産	4,202,991	4,431,086
現金及び預金	1,063,330	1,145,688
売掛金	614,007	552,458
商品及び製品 ^{*1}	1,881,573	2,061,076
仕掛品 ^{*2}	161,967	160,638
原材料及び貯蔵品	142,449	62,483
繰延税金資産	87,105	83,412
その他	281,543	383,394
貸倒引当金	△28,985	△18,066
固定資産	4,233,572	4,706,493
有形固定資産 ^{*3}	2,460,354	2,806,859
建物及び構築物	1,699,548	1,951,871
機械装置及び運搬具	97,387	83,851
土地	462,736	462,736
建設仮勘定	-	1,504
その他	200,681	306,896
無形固定資産	602,645	675,373
のれん	503,480	574,942
その他	99,165	100,430
投資その他の資産	1,170,571	1,224,259
投資有価証券	24,035	17,185
差入保証金	916,939	1,009,682
繰延税金資産	145,565	94,791
その他	84,032	104,873
貸倒引当金	-	△2,271
資産合計	8,436,563	9,137,579

*1 商品及び製品

1,881百万円
(前期比179百万円の減少)

商品及び製品の大半は、「玄品ふぐ」で提供される超低温で保管されているとらふぐです。このとらふぐの在庫投資により「玄品ふぐ」は、変動の激しいとらふぐ相場の中、安定した収益が確保されています。今期は、在庫投資を抑制したために前期比179百万円減少しています。

*2 仕 掛 品

161百万円
(前期比1百万円の増加)

仕掛品は、主に長崎県対馬、三重県熊野灘において自社養殖中のとらふぐです。現在約15万匹を養殖しています。

*3 有形固定資産

2,460百万円
(前期比346百万円の減少)

有形固定資産は、新規出店を抑制していることから、減価償却、店舗閉鎖、減損等により減少しています。今後も出店コストを抑制していく方針のため減少する見込みです。

*4 有利子負債

6,224百万円
(前期比457百万円の増加)

有利子負債は、営業キャッシュ・フローが主に納税により圧迫されたことにより増加しています。今後は、収益改善、納税の減少、在庫の圧縮等により減少していく見込みです。

(単位:千円)

	当 期 (H21.11.30現在)	前 期 (H20.11.30現在)
負債の部		
流動負債	4,193,062	4,415,528
支払手形及び買掛金	301,541	491,752
短期借入金	1,693,334	1,450,384
1年以内返済予定の長期借入金	1,591,491	1,241,143
1年以内償還予定の社債	-	40,000
未払金	473,899	679,597
未払法人税等	35,208	194,038
未払消費税等	3,344	111,794
賞与引当金	-	23,809
その他	94,243	183,009
固定負債	3,195,582	3,315,477
長期借入金	2,939,991	3,035,446
その他	255,591	280,031
負債合計	7,388,645	7,731,005
純資産の部		
株主資本	1,024,154	1,397,526
資本金	324,060	323,920
資産剰余金	433,056	432,916
利益剰余金	555,017	827,689
自己株式	△287,980	△187,000
評価・換算差額等	840	-
新株予約権	22,924	9,047
純資産合計	1,047,918	1,406,574
負債・純資産合計	8,436,563	9,137,579

連結損益計算書 (要約)

(単位:千円)

	当 期 (H20.12.1～H21.11.30)	前 期 (H19.12.1～H20.11.30)
売上高	10,816,606	11,313,934
売上原価	4,387,091	4,219,802
売上総利益	6,429,514	7,094,132
販売費及び一般管理費	6,299,382	6,655,472
営業利益	130,131	438,660
営業外収益	32,199	35,486
営業外費用	112,536	99,862
経常利益	49,794	374,284
特別利益	17,387	134,737
特別損失	128,038	166,584
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	△60,855	342,437
法人税等	90,756	186,500
当期純利益又は当期純損失	△151,612	155,936

連結株主資本等変動計算書 (要約) H20.12.1～H21.11.30

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	資本金	資産剰余金	利益剰余金	自己株式	株式資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	323,920	432,916	827,689	△187,000	1,397,526	－	－	9,047	1,406,574
当期変動額									
新株の発行	140	140			280				280
剰余金の配当			△120,380		△120,380				△120,380
当期純利益又は当期純損失			△151,612		△151,612				△151,612
自己株式の取得				△100,980	△100,980				△100,980
連結範囲の変動			△679		△679				△679
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)						840	840	13,876	14,716
当期変動額合計	140	140	△272,672	△100,980	△373,372	840	840	13,876	△358,655
当期末残高	324,060	433,056	555,017	△287,980	1,024,154	840	840	22,924	1,047,918

特別損失

128百万円
(前期比38百万円の減少)

店舗閉鎖損失52百万円、トドクックの営業所閉鎖損失23百万円、減損損失47百万円等が計上されています。

*1 営業活動によるキャッシュ・フロー

△288百万円
(前期は857百万円)

税金等調整前当期純利益の減少403百万円も要因ではありますが、法人税等の支払額の増加320百万円、未払消費税等の増減額の減少152百万円、長期前受収益の増減額の減少242百万円などの特殊要因により営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスになりました。

*2 投資活動によるキャッシュ・フロー

△111百万円
(前期は844百万円)

前期はM&Aによる関係会社株式の取得、新規出店などの投資を行いました。今期は新規出店の抑制、差入保証金の回収などの要因により投資活動に使用されたキャッシュ・フローは圧縮されています。

*3 財務活動によるキャッシュ・フロー

370百万円
(前期は185百万円)

営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなったことから、短期借入金・長期借入金ともに増加し資金調達額は増加しています。

トピックス

TOPICS



事業別情報

VARIOUS TYPES OF BUSINESS

とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」

「玄品ふぐ」は全国118店舗を展開する国内最大のふぐ料理専門店です。「玄品ふぐ」ではその責任と誇りを自覚し、関東圏においてふぐの食文化を広げる活動を2月9日の「ふぐの日」を皮切りに業界2位の「とらふぐ亭」と協力して推進していくことに致しました。「玄品ふぐ」が成長できる潜在的な市場はまだ存在するということを再認識し、広報活動・啓蒙活動に注力してまいります。



ふぐしゃぶ新味



てっちり赤味



雑炊ランチ

事業別情報

VARIOUS TYPES OF BUSINESS

「玄品ふぐ」の他にも多様な飲食店を展開

玄品グループでは、食材に関する競争力を活かし「玄品ふぐ」以外にも多様な飲食店を展開しています。

全国の漁港などの独自の調達ルートを活用した回転寿司「すし兵衛」10店舗、かに料理専門店「玄品以蟹茂」5店舗を展開。さらにイートマーケット「ちゃぶマイル」、スペインバル「バルデゲー」、高級ふぐ料理店「玄銀」、カレーと鍋「なかとき」などの個性ある飲食店も手掛けております。今後も、新たな事業展開の可能性を模索する上で初期投資を抑えた業態を開発し、既存店舗の業態転換を含めて、出店を行っていく考えです。



すし兵衛

レシピと食材「トドクック」

「トドクック」は、一般家庭を対象として食材を関西地区約25,000世帯に宅配しております。トドクック1年目は、主力のレシピ付食材以外にも「わけあり食材」の訴求に注力してきましたが、今後は「わけあり食材」だけではなく生産者と直結した産地直送品、家計のやりくり専用のレシピなどお客様に喜んでいただける企画・商品開発を推し進め、コアな顧客づくりを進めていきます。



レシピ版

ストア版



玄銀



ARIA.C



ちゃぶマイル



事業別情報

VARIOUS TYPES OF BUSINESS

☒ わけあり食材・わけあり良品市場

トドクックでは、平成21年1月よりわけあり食材の取扱いを開始し、平成21年12月には大阪黒門市場において「レシピと食材トドクック 激安！直送！ワケあり専門店」をオープン、平成22年2月には楽天市場において「トドクックわけあり良品市場」を開設しEコマースも開始いたしました。

わけあり食材の取扱いは、このデフレ環境の中での単なる激安販売とは異なり、これまでの流通の中では価値がなかった食材に消費者への十分な説明によって価値を持たせるという意味で、消費者にとって嬉しい企画というだけでなく生産者やメーカーにとっても意義ある取り組みです。

我々は、わけあり食材の取扱いは社会性があり、また非常に成長性の高い分野だと考えております。



☒ 富士水産とぐろーばる農園

玄品グループは、先行き不透明な食の未来をより輝けるものとするため、食材の生産への本格的な取り組みを開始しました。

長崎県対馬市という優れた環境の漁場において、富士水産は年間約12万匹のとらふぐを養殖し、また、三重県の熊野灘においても年間約3万匹のとらふぐの委託養殖を行っております。これらの自社養殖とらふぐは「玄品ふぐ」での使用はもちろん、とらふぐの扱いで有名な大阪黒門市場の「活とらふぐ 熊野灘直売所」やその他外部事業者への販売も含めて、養殖事業として確立していきたいと考えております。

また、平成21年2月には、北海道の当別町において農業生産法人ぐろーばる農園を設立し、約6ヘクタールの農地でじゃがいも、とうもろこし、米、かぼちゃ、アスパラガスなどの農産物の生産を開始しました。



我々の食材生産への取り組みは始まったばかりで、まだまだ未熟なところばかりですが多くの失敗の中からノウハウを蓄積し、グループの大きな競争力の源泉としてまいります。

株式の状況

SITUATION OF THE STOCKS

株式の状況 平成21年11月30日現在

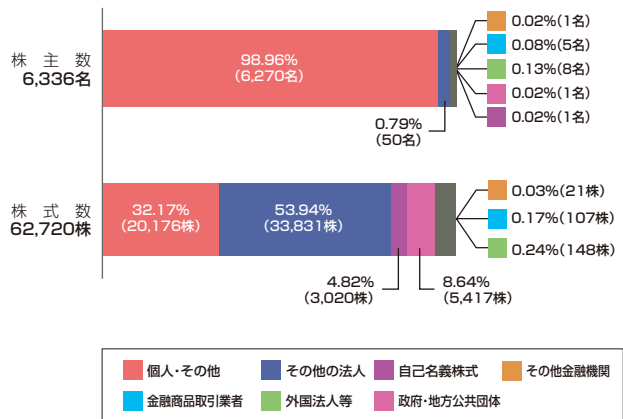
- 発行可能株式総数 200,000株
- 発行済株式の総数 62,720株
- 期末株主数 6,336名

大株主

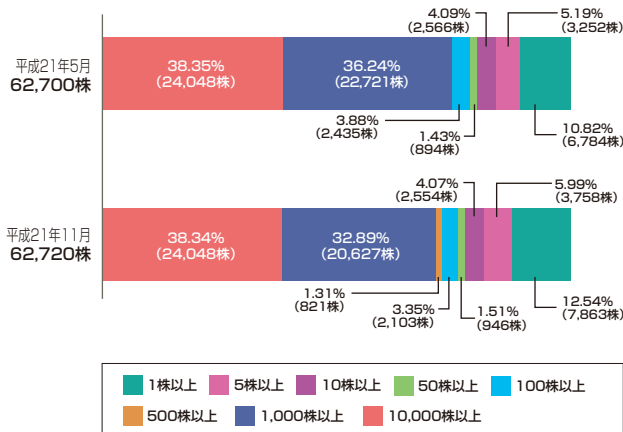
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
株式会社ヤタガラスホールディングス	24,048	38.34%
財務大臣	5,417	8.64%
サッポロビール株式会社	5,102	8.13%
有限会社サンミート	4,480	7.14%
岡本洋一	1,500	2.39%
谷間真	1,108	1.77%
吉崎晃敏	821	1.31%
浅野省三	410	0.65%
八藤真	400	0.64%
関門海福株会	326	0.52%

※当社は自己株式3,020株(所有割合4.82%)を保有しておりますが、大株主の状況には含めておりません。

所有者別株式分布状況



所有株式数別分布状況



株主優待制度

SHAREHOLDER BENEFITS

株主優待制度概要

- 1株以上3株未満 優待券×1枚(3,900円相当)
- 3株以上5株未満 優待券×2枚(7,800円相当)
- 5株以上 優待券×3枚(11,700円相当)

対象となる株主様

毎年5月31日、11月30日現在の株主名簿に記載された株主様

優待内容

1	とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」	秘玄匠味セット1人前ご優待
2	かに料理専門店「玄品以蟹茂」	ズワイ蟹鍋と炭火焼2人前ご優待 もしくは、3,900円相当の割引
3	スペインバル「バルデゲー」	3,900円相当の割引
4	ダイニングカフェ「ARIA.C(アリアッチ)」	3,900円相当の割引
5	とらふぐ料理「玄銀(くろかね)」	3,900円相当の割引
6	回転寿司「すし兵衛(すしべえ)」	3,900円相当の割引
7	琉球酒館「伽楽可楽(カラカラ)」	3,900円相当の割引
8	かれー和鍋「なかとき」	3,900円相当の割引
9	お取り寄せ玄品ふぐ	3,900円相当の割引
10	玄品ふぐひれ酒セット	オリジナルひれ酒セットと引き換え
11	レシピと食材「トドクック」	宅配トドクック5食セットと引き換え
12	富士水産	対馬の高級干物と引き換え

「株主優待券」のご送付時期

- 5月31日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、8月中旬頃の発送予定となります。
- 11月30日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、2月下旬頃の発送予定となります。

配当実施のお知らせ

当社グループは、新規出店、技術開発、人材育成への投資及び内部留保に留意しつつ、同時に当社株式を長期保有していただいております株主の皆様への利益還元として、積極的に配当を実施していくことを基本方針としております。

配当の内容

当連結会計年度におきましては、平成22年1月15日公表のとおり、1株当たり1,000円の配当を実施いたします。つきましては、1株当たり中間配当実績1,000円、期末配当1,000円、年間配当2,000円となります。平成22年11月期の年間配当につきましても1株当たり2,000円(中間配当1,000円、期末配当1,000円)を予定しております。なお、配当金額につきましては、現段階での予測となっており、変更する可能性もございます。



株主メモ

決 算 期 毎年11月30日

基 準 日 毎年11月30日

中間配当基準日 毎年5月31日

株式の売買単位 1株

公 告 掲 載 方 法 電子公告による
(<http://www.kanmonkai.co.jp>)
但し電子公告を行えない場合は、日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL:0120-094-777

会社概要

株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.

創 業 昭和55年9月
創業者山口聖二が大阪府藤井寺市にてとらふぐ料理「ふぐ半」
(現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店

設 立 平成元年5月 株式会社さかな亭(現:株式会社関門海)を設立

所 在 地 ■本社所在地
〒550-0014 大阪市西区北堀江2丁目3番3号
TEL:06-6578-0029(代表) FAX:06-6578-0030
お問い合わせ info@kanmonkai.co.jp
URL <http://www.kanmonkai.co.jp>

■玄品食門研究所
〒580-0041 大阪府松原市三宅東1丁目8番7号

■東京本部
〒108-0071 東京都港区白金台5丁目4番7号

資 本 金 3億2,406万円(平成21年11月30日現在)

役 員	代表取締役会長 兼 社長	谷間 真
	グ ル ー プ C E O	
	専 務 取 締 役	田中 正
	専 務 取 締 役	山元 正
	取 締 役	大村美智也
	取 締 役	本多 正嗣
	取 締 役	岩本 昌志
	取 締 役	原 真理
	社 外 取 締 役	川合アユム
	常 勤 監 査 役	松本 滋
	社 外 監 査 役	浅野 省三
	社 外 監 査 役	玉置 和則

従業員数 212名(平成21年11月30日現在)

事業内容 ■「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する食材関連技術の開発
■とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営及びフランチャイズ
による店舗展開
■食材関連技術を活用した新規開発事業による店舗展開

